

川井 正輔 昭和十五年 當用日記 に就いて

父 川井正輔は、平成 19 年 2 月 3 日に亡くなった。行年 85 歳。

戒名：

亡くなってから 1 年後に偶然、金川町の家で、青い紙袋に入ったこの日記を見つけた。几帳面な父の事で、不思議ではなかったが、戦争のことは饒舌に語る父の面影は感じれたものの、真面目一本、生涯現役であった父から自分の青春時代の事は、ついぞ聞く機会を逸していた。見つけた日記をめくるとそこには、父が 18 歳の今で言う高等学校（父は会津若松商業学校を出ている）の 3 年生の姿があり、4 月には東京に出て就職する様子が書いてあった。人生の分岐点の 1 年の姿があった。読むうちにこれは、ぜひ活字にして残したいと思い数年前から、ページをめくって読みながら、これを作成している次第である。太平洋戦争直前の横浜の生活の一端がそこには書かれているので、その当時の雰囲気を感じ取ってもらえるのではないだろうか、そんな思いを抱きながら、また若き親父の姿を想像しながら作る事ができた。